

2010年6月1日号

1 ご挨拶 メールマガジンを再開します。ネットワークの活動、経済教育の動向、授業へのヒントなどの情報を、月刊を目標に配信します。

2 ネットワークの活動

(1) 夏の「先生のための経済教室」の内容が確定しました

2008年から、東京証券取引所との共催ではじまった、夏休みの「先生のための経済教室」。今年は、8月2, 3日名古屋（中高）、4, 5日札幌（中高）、9, 10日東京（中学）、11, 12日大阪（中高）、16, 17日東京（高校）と全国4か所で計5回開催することになりました。今年の見玉は、昨年より講師ひとりの持ち時間を増やして、質疑の時間を含めて、じっくり話をさせていただき、内容理解を深めようとするところです。ネットワークメンバーの講師陣に加えて、大阪と東京の高校には、ネットワーク副代表大阪大学の竹文雄先生、東京中学には東京大学の吉川洋先生が登場します。新学習指導要領の実施にともなう、経済学習の変化にも対応できるように、岐阜大学の杉昭英先生の講義や教科教育関係の先生方にも登場ねがっています。東証の「ブルサ」というボードゲーム教材、新開発の企業ゲームの紹介など、充実した内容を企画しています。また、昨年好評だった、先生方とのディスカッション方式の情報交換会もすべての会場に導入しました。

詳細、スケジュールなどについては以下をご覧ください。

東京証券取引所 <http://www.tse.or.jp>

経済教育ネットワーク <http://www.econ-edu.net>

(2) 教科書会社の編集者に提言

5月27日（木）に篠原総一代表が、教科書編集者への提言を行いました。当日は、東京江東区にある教科書研究センターに、教科書を発行している在京の13社（東京書籍、教育図書、実教出版、三省堂、教育出版、清水書院、帝国書院、山川出版社、研数出版、第一学習社、東京法令出版、扶桑社、光村図書）の編集者が参加しました。

篠原代表からは、日本の指導要領は要求水準が高すぎて、仕組みや概念の意味が分かるように書かれるべき教科書に求められる条件を、日本の教科書は書いていないのではないかという分析がなされました。そして、「書かない勇気」を持ってもらいたいという提言を行いました。具体的には、新学習指導要領からはずされた内容や、すでに学ぶ意味を失っている項目は排除すべきと提言しました。さらに、市場メカニズムをただシク説明することや、何を教えるかという観点から、取り上げるトピックスの配列や、内容を見直すことも提言しました。説明時間が1時間と少なく、質疑まではできませんでしたが、教科書の影響力を考えると、それでも大事な一歩であったといえるでしょう。

提案内容の詳細は、<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/20100527.pdf> をご覧ください。

(3) 東京部会開催される

5月の東京部会が、5月27日(水)、日本大学経済学部3号館会議室でひらかれました。篠原代表は、教科書会社への提言を済ませた後に駆け付けて参加されました。

教科書担当者への提言の内容の紹介と討議がされ、夏の研修の準備状況などが報告されました。さらに、本年度の入試プロジェクトの企画、および入試に出る概念・理論のなかの「余剰理論」の解説の検討などが行われました。このうち、余剰理論は、教科書には掲載されていませんが、大学入試には計算まで出題されており、どのように生徒に理解させるかが難しいもののひとつです。夏の経済教室でも高校向けのセッションで検討の時間を設けてありますので、今後も準備や討議を続けたいと考えています。

内容の詳細は、<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo029report.pdf> をご覧ください。

(4) ワークショップの開催地の情報をお寄せください

ネットワークの重要な活動の一つに各地でのワークショップがあります。これまでに、弘前、八戸、福井、博多、熊本、大分などで実施してきました。今年も、ワークショップを展開してゆきますが、その候補地を募集しています。

対象は高校もしくは中学の先生方です。多くの場合は、地元の先生方の研究会や大学の先生方が協力したり主催したりしている研究会にお邪魔する形をとっています。先生方が出張で参加できるようにするためには、平日開催が条件になるケースが多いのも特徴です。

このマガジンをお読みの先生方で、経済教育や経済について勉強したいという要望をもっている研究会をご存知の方がいらっしゃったら、事務局にご一報ください。コンタクトをとって実施にこぎつけるようにしたいと考えております。

3 授業のヒント

○生徒は教科書どおりの授業をのぞんでいるか？

4月18日の毎日新聞に興味深い記事が掲載されていました。タイトルは「日本の高校生、教科書好き、でも、体験・発言は苦手」でした。同記事によると、日米中韓の4カ国の高校生に勉強に関する質問をした、財団法人の日本青少年研究所の調査では、「教科書の内容をきちんと教え覚えさせる授業」を「好き」と答えた高校生が、日本では71.4%と最多だったとのこと。二位は中国で64.9%、以下、韓国39.6%、アメリカ31.2%となったそうです。アメリカの数字は想定されますが、日本の高校生の受身ぶりは突出している感じがします。

このデータ、東京部会で紹介され議論になりました。なぜ、こんなに日本の高校生がおとなしく受身なのか。たしかに現場の先生方は、最近異口同音のように生徒がおとなしくなったと言います。その背景はなんなのか、経済教育をすすめるためにも、しっかり分析

してみたいデータです。

ちなみに、読者の先生方の学校での生徒はどうですか。また、大学ではどうでしょうか。

編集後記（みみずのたはこと）

猪瀬先生から引き継いで、メールマガジンの編集をおこなうことになりました。よろしくお願いいたします。

私はこの3月に第一次リタイアをして、現在は非常勤教員として、公立の中高一貫校で中等4年生（高校1年生）に「政治・経済」の経済分野を一年かけて教えるという恵まれた条件で、第二の教員生活をはじめています。

サブタイトルは、クラス担任をしていた時に発行していた学級通信のタイトルです。ある著名人のエッセイから拝借して使っていました。今回も、それをまた使わせてもらおうと思います。個人的趣味に走って、バイアスがかかったマガジンになってしまうかもしれませんが、ご意見、ご批評をいただければ有り難く思います。また、先生方のお持ちの情報をお寄せいただければと思っています。（新井 明）